

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

学校名	佐賀県立致遠館中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・「知・徳・体」のバランスのとれた教育の推進のための具体的な取組が概ね実践できている。 ・生徒の自発的学習習慣の定着と自宅学習の充実を図る必要がある。また、将来の夢や目標が持てる指導とさがを誇りに思う教育のさらなる充実が必要である。 ・時間外勤務時間の縮減と働きやすい職場づくりについての取組は概ねできているが、教育の質を高めるための職員の連携を高めていく必要がある。
2 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ○中部地区の県立中高一貫教育校として、これからの時代を見据えた6年間のカリキュラムに基づく教育実践を更に充実させる。 ○理数科・普通科併置の特徴を生かし、未来社会の文化の創造と発展に力をつくす、科学技術人材・グローバル人材を育成する。
3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ①「知・徳・体」つまり「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」バランスのとれた教育の推進 ②「生きる力」つまり自分で考え適切に判断して行動できる力の醸成 ③「主体的・対話的で深い学び」の実践とコミュニケーション能力に富む人材の育成 ④教職員にとって働きやすくやりがいを感じる職場づくり ⑤SSH指定校として、中高における理数教育のさらなる充実を図り、科学的・論理的思考力を育成 ⑥地域に開かれた学校づくりの促進

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目			
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組
●学力の向上	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○授業を受けて「なるほど、わかった」と肯定的な回答した生徒を90%以上 ○授業をとおして「学力(技能)を向上させた」と肯定的な回答した生徒を90%以上	・少人数授業やTTの実施による個に応じた指導の充実 ・復習課題や確認テストを活用した基礎学力の定着 ・定期考査や模試で学習定着度を把握し、実態に応じた適切な指導 ・個に応じた補充学習や発展的学習の積極的な実施 ・年2回の授業アンケートで生徒学習意識の把握・分析
	○自発的学習習慣の定着と自宅の充実	○平日2時間、休日4時間で週18時間以上となる家庭学習時間の確保した生徒を80%以上	・家庭学習状況を把握した適切な指導 ・学年と教科が連携して計画的な課題の質を生徒に提示 ・C-timeを活用した学習時間調査の実施 ・自主的な学習への取組を促す指導
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒を90%以上 ○図書室の貸出冊数を一人20冊以上 ○豊かな心の醸成につながる講演会等を年2回以上	・人権講演会(人権集会)や道徳に関するアンケートの実施 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・図書室利用を促進するため図書委員会の活動で読書の啓発活動 ・各学年会・生徒指導部会・教育相談部会の定期的開催と情報共有
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめは絶対にしない」という意識をもった行動ができている」と回答した生徒90%以上 ○アンケートを活用し、いじめを許さない雰囲気づくりと意識の向上	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルの作成・見直し ・定期的ないじめアンケートの実施で実施把握と早期対応 ・問題発生時の迅速な対策委員会の開催及び組織的対応と関係機関との連携 ・全校集会やHR等で、いじめ防止の啓発活動の徹底
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのようなところを認めてくれている」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童生徒90%以上	・生徒の資質・能力を育む授業づくりの校内研修等の実施 ・各種体験活動で、生徒に活動の見直しと学びの振り返りを行う活動を仕組む ・教育活動全体で、生徒が自己有用感を育む取組の実践
	○人権・同和教育の推進	○「人権が尊重され生活できている」と感じる生徒95%以上 ○身近な人権課題を把握し、解決しようとする姿勢の涵養	・人権意識に関するアンケートの実施 ・人権・同和教育に関する講演会や職員研修の実施 ・各教科、道徳、特別活動での人権学習の充実による生徒の人権意識の向上
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○朝食喫食率を90%以上 ●「健康に良い食事をしている」生徒を90%以上	・保健だよりを活用して朝食の重要性の周知と生徒の意識の向上 ・朝食喫食率調査やミルク給食等をおとしたの食育教育の推進 ・致遠館手帳を活用した規則正しい生活習慣の定着
	○部活動(社会体育を含む)や課外活動への意欲的な参加	○部活動(社会体育を含む)への加入率を90%以上 ○部活動計画に基づく休日の実施率を100%	・生徒会主催の部活動オリエンテーションや部活動体験入部期間を設け、部活動加入の促進を図る ・ボランティア活動等の課外活動への参加を促す ・「部活動の在り方に関する方針」に沿った休養日設定の徹底
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在職等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限の遵守 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日及び学校閉庁日の設定 ・出勤システムを活用した時間外在職等時間の自己管理の徹底 ・会議や行事の縮減・精選と業務の効率化 ・年間計画に基づいた部活動指導と適切な休養日設定
	○教職員間の信頼・連携の強化と働きやすい職場づくり	○「働きやすい職場である」と考える職員を90%以上	・職員アンケート(年1回)の実施 ・月1回のゼロの日を設定し、教育公務員としての自覚の再確認 ・校内での職員の相談体制の周知徹底 ・衛生委員会の充実
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員70%以上	・校内職員研修の実施 ・シェアリング・スタートを活用した職員間の共有と連携 ・個別的教育支援計画(合理的配慮申請書)の適切な運用
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組
○中高一貫教育の充実	○中高6年間を見通した教育課程の編成と実践	○必要な基礎学力・応用力の育成のために、授業改善や新たな取り組みを試みようとした教員90%以上 ○中高6年間を見通したより良い教育課程の編成	・キャリア教育会議や中高一貫教育研究委員会で、適切な教育課程の見直しと検討の実施 ・朝のG-timeの活用の見直し
	○中高6年間を見通したキャリア教育の充実	○学校評価アンケート「中高一貫校の特色を感じるか」「生徒に応じた進路指導をしているか」において肯定的な回答をした生徒をともに80%以上	・学校評価アンケート(年1回)の実施 ・キャリア教育会議での中高職員の共通理解と効果的なキャリア教育事業の運営 ・ピックアップ面談等を通じ、進路選択に関して個に応じた指導
◎志を高める教育	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎「さがを誇りに思う教育」を推進し、「佐賀に愛着を持つ」生徒を85%以上	・総合的な学習の時間や学校行事で郷土に関する学習の実施 ・エリアスタディやボランティア活動で郷土のことを知る機会の設定
	◎SSH事業の活用	○「トライアル」・「Jr. 課題研究」・「探究基礎」をとおして、実験や調査等での試行錯誤をもとに教訓を作り、主体的な学びに活用した経験のある生徒を80%以上	・学校設定科目で「試行錯誤から学ぶ力」や「協働的に取り組む姿勢」の育成につながる指導法の開発
○教育の質の向上	○「主体的・対話的で深い学び」を軸にした探究的授業の推進	○生徒が主体的・対話的に授業に取り組めるよう探究的な授業改善を進めた教員90%以上	・公開授業や授業研究会の実施による指導力の向上 ・ICTを活用した授業の実施 ・生徒による授業評価の結果に基づいた授業改善
	○ICT利活用教育の推進	○主体的に情報を収集し、発信できる生徒を90%以上 ○ICTを活用して、知識・技能を深め、自らの資質向上に生かそうとする生徒を90%以上	・ICT利活用方向上のための効果的指導法の工夫 ・「エリアスタディ」や「Jr. 課題研究」での情報収集力・分析力・プレゼン力の育成 ・英検等の資格取得や授業、部活動でのICT利活用推進

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
----------------	---